

# 事務事業評価資料

施策名	多彩な国際交流の展開		所管部局課名	産業労働部観光・国際局国際交流課					
事業名	外国青年招致事業費		担当者電話番号	渉外係 078-362-9017					
事業目的	国際交流事業の企画・運営等を行うため、「語学指導等を行う外国青年招致事業」（通称JETプログラム）により、国際交流員を配置する。								
事業内容	国際交流員の配置(6人)			事業開始年度	昭和61年度				
事業に要するコスト	区分	平成20年度決算額		平成21年度当初予算額		平成22年度当初予算額			
	事業費	(38,019千円) 38,019千円		(38,016千円) 38,016千円		(38,016千円) 38,016千円			
	人件費	5,930千円	従事人員 0.7人	5,852千円	従事人員 0.7人	5,742千円 従事人員 0.7人			
	総コスト(+)	43,949千円	従事人員 0.7人	43,868千円	従事人員 0.7人	43,758千円 従事人員 0.7人			
事業の目標	JETプログラム参加者及び市町担当者への研修の実施			[目標設定理由] ・JETプログラムで外国語指導助手(ALT)を招致する都道府県は、「取りまとめ団体」としてJET参加者、市町担当者への研修、助言、カウンセリングの実施等が義務づけられている。 ・そこでは、JET参加者と同様の言語・文化背景をもったCIR(国際交流員)により実施し、迅速な課題の理解及び的確な対応を行う。 ・このため、JET参加者及び市町担当者への研修を毎年度最低1回(計2回)は実施することを目標とする。					
	市町、学校、民間団体等への国際交流員派遣回数確保			[目標設定理由] ・JETプログラム(語学指導等を行う外国青年招致事業)は、昭和62年に開始した地方単独事業で、地域レベルの国際交流の進展や語学教育の充実を図ることを目的のひとつとしている。 ・このため、国際交流員が地域で国際交流事業の企画・運営を行う機会の確保を目標とする。					
目標の達成度を示す指標	指標名	目 標		20年度実績	21年度見込み	22年度目標	達成率(%)		
		目標値	年度				H19	H20	H21
	JET参加者、市町担当者への研修(回)	2	毎年度	2 (21,975千円)	2 (21,934千円)	2 (21,879千円)	100%	100%	100%
市町、学校、民間団体等への国際交流員派遣(回)	120	毎年度	120 (366千円)	90 (487千円)	120 (365千円)	100%	75%	100%	
評価結果	必要性	・JETプログラム(語学指導等を行う外国青年招致事業)は、地域レベルの国際交流の進展や語学教育の充実を図るとともに、帰国後、知日家として日本理解の促進に貢献する外国青年を育成することにより、わが国・地域の国際的地位向上のため必要である。 ・JETプログラムで外国語指導助手(ALT)を招致する都道府県は、「取りまとめ団体」としてJET参加者、市町担当者への研修、助言、カウンセリングの実施等が義務づけられている。 ・JET参加者、市町担当者への研修、助言、カウンセリング等はJET参加者と同様の言語・文化背景をもったCIR(国際交流員)により実施する方が、それぞれの課題の理解も迅速であり、対応も的確に行えることから、国際交流員設置が必要である。							
	有効性	・研修回数は目標値に達し、派遣についても派遣先市町・団体からのニーズに対する確に対応しており、着実に成果があがっている。							
	効率性	・JET参加者等への研修については指標1単位あたりのコストが毎年度減少しており、また20年度には国際交流員1名を減員したが、派遣において多様な要望に対応すること等により、効率的な執行に努めている。							
	民間・市町との役割分担	・JETプログラムにおける県の役割は自治体国際化協会が定めており、市町・民間と役割分担できない。							
	受益と負担の適正化	・国際交流員の派遣に係る旅費は、派遣依頼者が負担しており、受益と負担の適正化を図っている。							

# 事務事業評価資料

施策名	多彩な国際交流の展開	所管部局課名	産業労働部観光・国際局国際交流課				
事業名	外国青年招致事業費	担当者電話番号	渉外係 078-362-9017				
方向性	新規	拡充	継続	実施手法の見直し			
	廃止	縮小	統合	凍結(休止)	延長	終期設定	
実施手法の見直し内容	市町移譲	民間移譲	民間委託	P F I	負担割合変更	事務改善	その他
実施方針	<p>CIRは講演の実施等の各種活動を行うことにより、地域の国際交流の促進に大きな貢献をしている。</p> <p>また、同じく世界最大規模の人的交流プロジェクトであるJETプログラムにより招致されたALTについては、わが国全体で世界各国からこれまで52,000人（本県では約5,000人）を超える青年が来日し、地域における国際交流活動や、中学校・高等学校での語学指導などに活躍しているところ、本県では帰国に際して、ひょうご友好親善大使に任命するなど、帰国後も本県と参加者の出身地域との交流に活躍しているが、これらALTの本県に対する親近感や好ましい感情を造成する上で、CIRによる支援体制が有効に機能していると考えられるため、現状を維持して継続する。</p>						